桑名郡多度町

柚井城跡測量の概要

1990

多度町教育委員会

前 言

私たちが住む多度町には、中世末期に幾つかの城や砦がありました。柚井城跡を始め、小山城跡、猪飼城跡、御衣野城跡がありましたが、殆ど原型を崩さずに残っていたものの一つが、この城跡です。

開発の波が押し寄せる中、多くの文化遺産を後世に残すことは大切なことです。今回、当遺跡の所有者であられる西田氏、並びに周辺に宅地・農耕地をお持ちの方々のご好意により、当町所在の柚井城跡実測図を作成することができました。

遺跡の保存、保護等今後残された課題は多くありますが、今後とも関係各位のご理解とご協力をお願いする次第でございます。

最後になりましたが、この報告書の文案は、この実測図作成を積極的に推進されました、当町文化財調査会会長伊東春夫氏に委嘱いたしました。厚くお礼申し上げます。

1990年3月

多度町教育委員会 満 仲 正 美

	目	次			
Ι	1	立置と環境・・・・・・・・1		4	六ノ郭・七ノ郭・・・・・・7
	1	位置1		5	八/郭・・・・・・7
	2	歴史的環境・・・・・・・2	(6	九ノ郭・十ノ郭・・・・・・8
	3	地理的環境 · · · · · · · · 2		7	その他の郭・・・・・・8
Π	Ì	貴構の現況・・・・・・・5	;	8	背後 · · · · · · 8
	1	始めに・・・・・・5	9	9	その他・・・・・・8
	2	丘頂部・一ノ郭 · · · · · · · 6			お詫びと訂正・・・・・・9
	3	ニノ郭~五ノ郭 · · · · · · · · 6	Ш		地形図10

I 位置と環境

1 位 置

ここに掲げる遺跡は、遺跡番号 県―149 町―23 柚井城跡 三重県桑名郡 多度町大字柚井字西城 1746 の 1 番地に所在する。(遺跡番号などについては、文 末のお詫びと訂正をご参照下さい)

多度町は桑名郡の北西端に位置し、南は桑名市、西は員弁郡東員町・員弁町・北勢町、北は岐阜県海津郡南濃町に、東は揖斐川を挾み同海津町と、当桑名郡長島町に、それぞれ隣接している。

この大字柚井は、多度町内では、中央よりやゝ北東部に位置し、西は多度山上遊園地と祢宜谷橋の線(但し愛宕神社は大字多度に属する)、東は国道258号線まで、南は多度川の100mほど北のあたりまでである。なお北は県境である。

さて、当遺跡は愛宕神社の東 250 m、多度町庁舎の北 600 m程の距離にあたり、 前記の多度山上公園の南南東の山裾に当る。

遺跡の南側は、耕逸山養春院と、その経営の多度保育園がある。また、東には赤谷川が流れ、これは砂防、護岸工事が多度川との合流点まで済んでいる。北は断崖で、この裾に林道がある。西は遺跡北西の溜池に向って南から谷が入り込んできている。



ところで、この遺跡の正面は南であるが、その南限は、現在の山裾の道路(標高32 m前後)より、やや下の辺りまでと考えられる(地籍図では当該地番である1746-1、及び同-2 は、まだ少し南へ延びている)。なお、遺跡の範囲については、あとで触れることとしたい。

2 歴史的環境

いまは視野を多度町内に限り、また、概観に止めておく。

先ず、この同地番内に、西城遺跡がある。この城跡から南へ降りて、標高 30 m位の所で、剥片石器 1 片と、土器 1 片(時代不明)とを採取している(1970.1.8. 山下調査員)。

縄文時代から中世までの複合遺跡である一の谷地区。1928(昭和3)年、耕地整理の際に発見の、3千年前に死滅した日本山犬の骨、木簡等を出土した柚井泥炭層遺跡。古代から信仰を得ていた多度神社と、「神宮寺伽藍縁起 資財帳」を残した多度神宮寺と、その後の宝雲寺。記紀の日本武命の東征伝説に出る尾津の前 (さき)と、尾津神社。奈良時代前期に鴟尾 (しび)を棟に掲げていた南小山廃寺や北小山廃寺、そしてこの二寺のうちのどちらかが、勝福寺であったのであろう。倭姫命の皇太神宮遷座伝説に登場する野志里神社。更に、柚井と大久保の古墳群等、数多くの古い史蹟、遺跡が存在し、それらに囲まれている。

時代は降って、織豊政権後、徳川幕府の治世に、薩摩藩士等による宝暦治水、然しそれ以後にも毎年襲ってきた水害。この災害の総決算の心算で、明治の三大川改修が行なわれ、而も尚、昭和になって伊勢湾台風に襲われた。幸いに当遺跡は、こうした災害には無縁であるが、土地柄としてはこうした土地である。

3 地理的環境

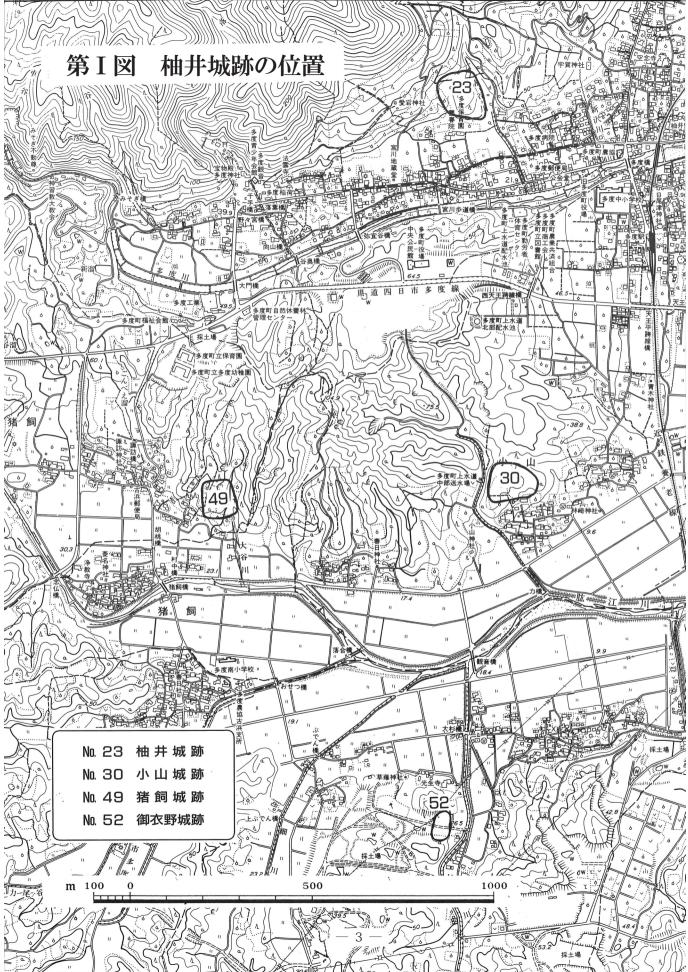
この項も記述範囲を、当町内の同時代の城砦に限定する。

ところで、これら城砦の存続していた年代は、室町時代も後半になり、北伊勢に四十八家と呼ばれた、小群雄が割拠した頃のことで、その後彼らの殆どは、尾張から侵攻してきた織田信長に滅ぼされた。

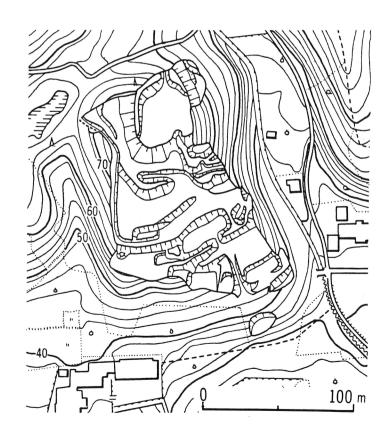
この織田氏の伊勢侵攻の原因は、織田氏領内における、反織田勢力や一向宗徒を応援するような姿勢を見せたためで、後になると本気で一向一揆に加担し、織田氏と対決することとなり、ついには滅び去ったものである。

なお、織田氏の伊勢侵攻の始めは、1567(永禄10)年、また最後の年は、1574(天正2)年である。この間改元は、1570=元亀改元のみ。

いま便宜上『勢陽五鈴遺響』の記述を引用するに止める。



- 「柚井砦跡」―「梶田左馬助及梶田刑部丞住セリ。其後西松要人領セリ。永禄中尾 州織田信長ノ為ニ廃ス」
- 「多度砦跡」―「多度ニアリ。小串伊予守住セリ。永禄年織田信長ノ為ニ廃シテ、 其跡ヲ遺セリ。今ノ多度神社祠官小串氏モ其ノ族ナリ」
- 「猪飼城跡」―「小串次郎左衛門尉則道居セリ。累祖六代住ス。天正五年卒シテ其嗣ヲ亡セリ。古屋草紙、永禄十一年信長ノ為ニ滅スト云」
- 「小山城址」―「高井民部大輔居ス。淡川出雲守ノ従弟ナリ。永禄十年織田信長、 勢州征伐ノ時マデ住セリ」
- 「香取砦址」一前書には、関係記事なし。
- 「南ノ郷」―前書には、関係記事なし。
- 「大鳥居砦蹟」―「水谷与三兵衛尉光吉住セリ。元亀天正の間ナリ。天正二年七月 織田信長、同郡長島城征伐の時、柴田修理亮、稲葉伊予守、蜂谷兵庫頭、当城 ヲ撃タシム。其トキ廃亡セリ。信長記二詳二載タリ」。
- 「溝野城址」―「淡川出雲守、旧ハ信濃州ヨリ来住セリ。―名草薙ト称ス。其裔民間ニ下リテ城地モ廃セリ。桑名郡賦ニ載タリ。今考ルニ佐乃富神社ノ地ニ因テ草薙ヲ家称トセシ・・・・・・ 村正草薙氏モ其ノ胤ナルヘシ」



第2図 遺構略図 柚井城 149・23

多度町柚井字西城 規模 130 × 180m

(三重の中世城館補遺より抜粋)

Ⅱ 遺構の現況

1 始めに

今は1990年、思い返せば昨春、町立資料館の二階から、ふと北の方を眺めたとき、いつも緑に包まれている辺りが、妙に明るく感じたので、目をよく懲らしてみると、どうも柚井の城跡らしい。これまでは見たこともない姿をしていた。

その後、教員委員会事務局に、現地の航空写真と、実測図の作製をお願いした。それが今実現し、その代わり報告書の執筆をお引き受けすることとなった。ここに、これまでの経緯を記しておく次第である。

さて、養老山塊最南端と呼んでも可笑しくない、通称多度山の南斜面の山麓の一画に、その昔、それ自体が砦であった、東西約130m、南北約180mの独立丘の南斜面には、四段の段差が見られ、更に、それ以南は緩斜面から平面へと移行する。

この城砦の範囲は、この遺跡図よりも、まだ南まで広げて考えなければならないようである。理由はI-1の末尾の所で見た、同地番の範囲からの類推であるが、実は同地番に限らず、西の養春院から赤谷川までの範囲を、南の大字多度との境の辺りまでと、考えるべきかと思っている。更に、実際の戦のときの防衛線は、多度川左岸であろうか。

さて、この柚井城の古絵図は、残っていないと聞いている。従って現在、参考にし得る城跡の図面としては、『三重の中世城館補遺』〔注 1〕 (1981 年 三重県教育委員会) 8ページ下段の「多度城 149・23 多度町柚井字西城規模 130×180 m」としたもの以外にはないと思われる。ところで、この多度城としたのは、柚井城の誤りであったことは、前記したとおりである。

上記のような次第で、当城においては、おのおのの部所についての、名称が全く不明である。従って現況より類推する以外に方法はないであろう。これも当然ながら、城砦の各部所の名称については、他の同種のものよりの類推も止むを得まい。

従って、当遺跡の現状は、以下の用語を用いて説明したい。

- (1) 近世城砦などで、本丸・二之丸などと呼ぶ城内の郭については、当遺跡では、 判然としない。従ってここでは、仮に一ノ郭・二ノ郭などと記するとともに、こ の番号順は、標高の高いものから低いものへと逐っていく
- (2) 前記の樹木山出しのため、通路を必要としたので、これまでの地勢に変化が加

えられた。それは土を削り取ったことと、盛り上げたこととである。この前者の場合 "削り土"といい、後者の場合を"盛り土"と、それぞれ表現していきたい。

[注1] 三重県埋蔵文化財包蔵地一覧表(5)の中に掲載

2 丘頂部・一ノ郭

この独立丘ともいえる城跡の内、その丘頂部の最高標高は78.6 mを測る。

この丘頂部を、一ノ郭と呼ぶ。この地点こそこの城砦の最重要の指揮所であった。 現在のこの郭の範囲は、標高 74 m以上の平担部と考えられ、南側で、東に偏って大きく縊 $^{(\langle U)}$ れ、東端で舌状に高地が張りだした、不整形であるが、これを最も広く測った場合(以下これに同じ)、東西 42 m、南北 46 mとなる。

この郭の土塁は、東北西三方に掛廻されていて、背後にあたる北側の、先の最高標高の辺りで、その幅は基礎部で約 $7\,\mathrm{m}$ 、頂部は約 $3\,\mathrm{m}$ 、また東側で $17\,\mathrm{m}$ 、西側で $25\,\mathrm{m}$ ほどの長さになる。この土塁は、本来は繋 $^{(\circ t)}$ がっていたと思われるが、現在は北と東の間に深さ $1\,\mathrm{m}$ 余、上部で幅 $3\,\mathrm{m}$ ほどの間隙があるが、これは相当古くからのものと思われる。

筆者は、ここの伐採以前に、ここで採り挙げる辺りの地形を、明瞭に記憶していないので、これは推測になるが、元来は、 $75~m\sim65~m$ の等高線は、西から東へほぼ直線になっていたと思われる。しかし、この上の75~mの線は、確かに中程やや東寄りで縊れていたことが、前記の『三重の中世城館』の図にも現われている。これより推測すると、 $74.5~m\sim68~m$ に見られる崩落は、先の縊れから流れてきた雨水によって、造られたものと思われる。

次に、この一ノ郭と、その南東部の下方の等高線が凹凸している 65 m線までを、含めた範囲内での、削り土と盛り土とは、次の如くなっている。即ち現状は、前記のように、東南端の 75 m・74.5 m・74 m (以下 70 m辺りまで)等高線に見られるように、舌状に台地が 7~8 mほど延びていて、このそれぞれの南側へ低地が縊れ込んだ形である。然し、この縊れ込んだ低地の東半分から、舌状台地西半分とを、削り土して、これを通路とし、更にその残土で、この西にある崩落部分の下辺(南)に盛り土し、これで先の通路を受け、さらに下の通路に抜けていくと推測される。なお、この舌状部分も先端で削り土された可能性があると考えている。

3 二ノ郭・三ノ郭・四ノ郭

二ノ郭と見たのは、一ノ郭の東斜面数にの所に、東西9m南北15m程の小さい平地で、標高は72m~70mである。こうして文書にすると、平地とは思えず、増して郭などとも考えられないであろうが、一ノ郭から見下ろすと、結構様になっている。役割は北東方の見張りと、背後への避難基地かと考えたが、避難路の痕跡はないよう

である。

三ノ郭は、一ノ郭の北西角の下、73 m~68 mで、東西20 m南北15 mほど、この標高差5 mも大して気にならない。どうもこの辺り、元は東が高くなっていたのを、削り土して、下方へ盛り土したのでないかとも思われる。蓋(けだ)し『三重の中世城館』の図ではこの部分が二段になっているから、その可能性があるかも知れない。

四ノ郭は、現在は一ノ郭の南東端の先にあり、やや歪んだ一辺 12 m程の、点線で囲まれた四辺形の平地である。この点線の北の辺の中程から、西の辺と、これに続く崩落部で削り土し、反対側の低部に盛り土し、広場にしたものであろう。だから、元来この四ノ郭は存在しなかったと考えられる。郭の位置確認のため、この方法を採らせてもらった。念を押すが、四ノ郭は、存在しない。名称だけ挙げたに過ぎない。

4 五ノ郭・六ノ郭・七ノ郭

五ノ郭は、一番広い面積をもつ。一ノ郭正面から西へ向って広がっている。標高 $67 \text{ m} \sim 59 \text{ m}$ (一部 58 mまで)の間、東西 80 m南北 50 m程になる。標高差も気に ならない。今この中に通路があり、その西と北を削り土し、反対側に盛土する。

六ノ郭は、一ノ郭の正面で、標高 $57~\text{m}\sim54~\text{m}$ の間、東西 30~m南北 10~m程、高低差が大き過ぎると思われるかも知れないが、次の七ノ郭と八ノ郭との間あたりに立ち、これを眺めるとそれ程でもない。この郭は八ノ郭の直上にあり、防衛上極めて重要な意味をもつと考えられる。

七ノ郭は、西南端の郭で、 $54 \text{ m} \sim 53.5 \text{ m}$ の平地、東西 45 m南北 14 mであるが、 $53.5 \text{ m} \sim 51.5 \text{ m}$ の等高線が、東南角に食込んでいるが、ここは四角く削り土され、そのすぐ下に盛り土し通路にしている。それにしてもこの前方は、急な落差があり、西方に対し重要な防衛上の位置にあると思われる。南に崩落がある。

5 八ノ郭

この郭は、当城郭内での唯一の、正面に土塁を持つ郭である。そしてまた、この城 砦が廃城となった後、この場所で、地形の変改が行なわれていた。

今、標高 52 m線は、西から南正面に廻り込み、西半は前述の七ノ郭の前を通り、東半で桝形を造り東に続く。然し、この桝形は 1945(昭和 20) 年、軍部が造ったもの、従ってこの $56 \text{ m} \sim 50.5 \text{ m}$ 線はほぼ直線でつながっていた筈である。

また、西から突出する 52.5 m線は、東の 52.4 m地点に近接し、高さ約1 mの土 塁を形成していた。更に、この 52.4 m地点と、その北東 25 mの等高線の曲がり鼻の、 古い大木の根が食込んだ地点との、各々の頂部だけを残し、その間は土台部分しか残 さず、土塁頂部を削り土し、南の下方へ盛り土し、通路としたものである。

6 九ノ郭・十ノ郭

九ノ郭は、八ノ郭の直ぐ前にある。標高 $49 \text{ m} \sim 47 \text{ m}$ の間、東西 30 m南北 20 m ばかりである。

十ノ郭は、その下 $46 \text{ m} \sim 45 \text{ m}$ の間、東西 55 m南北 12 m程で、中程やや西よりで縊れがある。

7 その他の郭

以上の10箇所の内、除外した「四ノ郭」の他の9箇所と、当然この南方に何個かが存在したであろうし、他の三方にも散在していたと考えなければなるまい。これだけのことを書き添えただけで、この項は終了させて頂くこととしたい。

8 背後

この城砦の背後は北である。この丘の北麓は幅約1間の林道で、城跡側を高さ約2m程削っている。昔はこの道幅まで城山であった筈で、この辺りが向かいの山との谷合いであったのであろう。

また、この林道の標準的標高は 60 m程、従って城内の最高地点との標高差は、18 m程ある。また、最高地点と背後の道路との水平距離は 30 mである。この内 63 m $\sim 78.5 \text{ m}$ の間の傾斜角は約 30° で、この傾斜を登ることは容易ではない。

9 その他

- 1) 井戸一井戸のない城は考えられない。ここには「東の方に井戸がある(あった)」という伝えがあると聞く。現在はその痕跡もない。一ノ郭と赤谷川との標高差は25 m、果たして水は得られたのであろうか。気になるところである。
- 2) 採集遺物―ここでは、昨年来この丘の区域内で、採集したものに限って見ること とする。記載の順は、高所より低所にいたる。
- (1) 土師器 (はじき) 片 2 個一器形不明、同一固体と思われる。一ノ郭南西寄り。
- (2) 陶器片1個―器形不明。一ノ郭中央部。
- (3) 中世陶片 2 個一瓶か、同一固体のもの。六ノ郭上部東寄り。
- (4) 十師器片9片一杯か、同一固体と思われる。六ノ郭通路下中程。
- (5) 中世陶片1個一碗の口縁部。上記の傍。
- (6) 須恵器片1個一瓶か。六ノ郭下部中程。
- (7) 須恵器片1個一瓶か。六ノ郭東部の下りの通路上。
- (8) 須恵器片2個一皿の糸底部。七ノ郭東端すぐ上。
- (9) 中世陶片1個―山茶碗底部。十ノ郭東端。

お詫びと訂正

本来ならば、この報告書の冒頭に置かなければいけないものですが、この冊子の性格上、又、伊東個人の犯した過ちでもあり、冒頭に置きえなかったので、ここに置かせていただくことをお許しください。

今回ここに、お詫びと訂正をすることとなり、私自身の不明を恥じることとなったのも、最初から綿密な調査を怠ったからで、何れにしても慚愧の極みです。

その訂正の内容は、この柚井城跡の遺跡と、多度城跡とを、ともに誤って報告したことで、遺跡台帳を始めとして他の全てにわたって、訂正をしなければならなくなったことを、ここに謹んでお詫びいたします。

それで、遺跡台帳記載内容を、次のように訂正させていただきます。

遺跡番号		- 種別	遺跡名	示	在	地	地	目	時代	(4)	遺跡概要	備	考
県	町	作里方门	退邺石	所	1二。	地	地	Ħ	 	14	(規模)	/VĦ	与
144	18	城跡	多度城跡					室町				所在	不明
149	23	城跡	柚井城跡	柚井字西城 1746 の 1		Щ	山林 室町		町	東西 南北 130m × 180m			

即ち、両者の遺跡番号・種別・遺跡名を、入れ替える。所在地以下は、元のままとする。

これによって、これまで遺蹟地図などに標示されてきた、多度城跡の場所が、柚井 城跡であること。同時に、これまでの多度城跡の記載内容は、柚井城跡のことと御理 解いただきたいと思います。

一方の多度城跡には、伝承地もなく、現在のところ不明だと伝わざるをえません。 従って、例えば、前記の『三重の中世城館』P8 下段「多度城」は、「柚井城」と 読み替えてください。

何れにしても、これまで永年にわたって、各方面に錯誤を及ぼし、ご迷惑をお掛け してきましたことを、衷心よりお詫び申し上げます。

多度町香取住 伊東春 夫記 (1990.3.31)



第3図 柚井城跡地形図

三重県桑名郡多度町大字柚井

柚井城跡測量の概要

発行日 平成2年3月31日

編 集 多度町教育委員会

印刷フクヤ印刷